

令和 5 年度 守谷市南部地域包括支援センター実績報告

守谷市南部地域包括支援センター

【地域支援事業】

Ⅰ 総合事業 介護予防・生活支援サービス事業

事業内容	計画	実績
介護予防ケアマネジメント	要支援者等に対する介護予防及び日常生活支援のためのケアプラン作成	チェックリスト該当者： 0 件 要支援者へのケアプラン作成 包括直営 27 件 委託 66 件 合計 93 件 ○ 委 託 先： 15 件 ○ 契約者数： 79 人 (令和 6 年 3 月末現在)

2 包括的支援事業(地域包括支援センターの運営)

事業内容	計画	実績
総合相談支援業務	① 相談業務	① 窓口・電話・訪問による相談 646 件 (延 2,525 件) 実数内訳 (認知症関連 54 件 介護保険関連 395 件 高齢者福祉関連 34 件 一般介護予防関連 11 件 医療関連 42 件 介護者の離職関連 0 件 その他 83 件)
	② 時間外対応業務	② 13 件 (介護保険サービス相談 医療相談 困難事例同行訪問 安否確認 取手・守谷・利根地域事例検討会参加 若年性認知症家族の会参加)

	③ 高齢者訪問 (旧:熱中症予防訪問)	③対象世帯 412 件 訪問・電話確認 406 件 不在 6 件 継続ケース 38 件 サービスにつながった件数 3 件
権利擁護業務	① 高齢者虐待対応 ② 相談業務	① 高齢者虐待対応 2 件 ② 窓口・電話・訪問による相談 27 件 (延161件) 実数内訳 〔 成年後見相談件数 5 件 虐待相談件数 2 件 その他 20 件 〕
包括的・継続的ケア マネジメント支援事業	① 専門職研修会 ② 介護支援専門員への支援	① 「認知症の方が見ている世界」 参加者 45 人 「高齢者に多い脳疾患」 参加者 36 人 ② 196 件

3 包括的支援事業(社会保障充実分)

事業内容	計画	実績
地域ケア会議推進事業	① 介護予防のための地域ケア 個別会議の開催	① 地域ケア個別会議開催 専門職による助言をもらい要 支援者のプランを検討した。 6 回 12 件 ② 地域ケア個別会議開催 困難事例について、ケース 関係者と処遇検討した。 11 回 2 件

4 介護予防支援

介護保険の要支援1・2の認定を受けた方が、個々の状態に応じて自立に向けたサービスを提供していくためのケアマネジメントを実施した。

(包括直営) 38 件

(委託) 147 件

合計 185 件

○ 委 託 先: 19 件 (令和6年3月末現在)

5 総括【1年間を振り返っての気付き・課題】

事業名	気付き・課題
総合相談支援業務	電話での相談では相談者の顔や表情が見えないので、相談内容を慎重に傾聴し、必要なアセスメントを行っています。また、相談者が日常生活を送るうえで、自身が「できる」といった意思を尊重、受容し再度確認の電話や訪問を併せて行い、相談者やその家族の状況や状態「想い」を再確認することで、医療や介護、福祉、地域等の必要な分野に適切に繋がります。 今後の課題として、相談者のニーズに沿った支援に的確で、また関係機関へスムーズにつなげていくためには、医療、介護、福祉、地域等の関係者と顔の見える関係づくりを築き上げていくことが必要と考えます。
権利擁護業務	独居、親族疎遠、経済面の不安、認知面の低下によりセルフネグレクト状態になっている困難事例に対して、迅速な対応が求められますが、本人・家族が支援拒否、また、身元引受人が不在であった場合、必要なサービスの受け皿がなく、長期化してしまうケースが少なくありません。通常業務を行いながらの困難事例に時間を割くことに非常に苦慮している状況です。 長期化することで支援者側に精神的負荷がかかり、支援者側の精神的ケアを検討していくことが課題であると考えます。また、支援に対する捉え方の違いから、関係機関と連携を図ることが困難となる場合があります。そのため行政、ケアマネジャー、医療等、地域関係機関との連携を強化していくことも課題であると考えます。
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	介護支援専門員守谷地区会で行われている個別事例検討会に出席することで、地域の介護支援専門員が抱えている問題や状況を把握することが出来ました。また相談者の自宅に訪問する

	ことで、相談者やその家族の状況や状態を確認することが出来ました。また直ぐに解決できる事、できない事がある場合は包括支援センターの専門職間で話し合いを行いながら、医療や介護、福祉、地域等の必要な分野に適切に繋げています。 相談者のニーズに沿った支援を的確に関係機関へスムーズにつなげていくためには、医療や介護、福祉、地域等の関係者と顔の見える関係づくりを築き上げていくことが今後の課題と考えます。
地域ケア会議推進事業	介護予防のための地域ケア会議では後半から作業療法士が不在となり、日常生活動作等の助言を得ることができませんでした。しかし各専門職の助言者から、医療的な面を中心に口腔内、栄養面、服薬等から必要なサービスの検討、移行など自立支援に向けた助言や方法を伺うことが出来ました。また、事前に両包括支援センターの職員が話し合いをすることで、自立支援への支援方法や個別課題について共通認識を図れたことで、会議をスムーズに進行することが出来ました。今後も継続していきたいと考えます。 会議の内容の質を高める為に、会議の中で助言者間での質疑応答や、見学者にアンケートや意見を取り入れ、活発な意見交換や情報交換の場となることが今後の課題と考えます。
その他課題	